

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101363
法人名	有限会社 シルバーケア
事業所名	グループホーム 春日苑川内
所在地	徳島県徳島市川内町沖島273番地 (電話)088-665-7710
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 8月 25日

【情報提供票より】(平成19年 8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年 12月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	24 人 常勤20人、非常勤4人、常勤換算 すみれ8人・うめ7人・さくら7.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建ての 1階部分
------	---------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	共益費12,000円・その他実費等	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	3 名	女性	22 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80.2 歳	最低	59 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 原田医院 ・しみず歯科
---------	-------------------

徳島県 グループホーム春日苑川内 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は将来を見通した熱い思いを持っており、グループホーム春日苑が地域福祉の拠点として学校、保育所、公民館、民生委員会等と連携をとり、開かれたグループホームの具体化を目指している。職員も管理者の考え、思いを理解して、共に取り組まれていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>申し送りノートの確認印やサインを始め、チームケア会議の定期開催が実施されチェックやサインがされ改善されている。また、利用者の入浴支援はいつでもできる体制作りがされていた。栄養の専門的なチェックや家族への連絡、市町村との連携など、前回の改善課題についてはすべて改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、それぞれ3ユニットの職員、責任者を中心に評価の意義を理解され全職員で真剣に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは施設側も含め14名で構成されて2ヶ月に1回開催されている。内容は災害対策、緊急時の対応等の研修がされており、意見交換を行う中で協力が必要とあればメンバーが協力して下さる等、事業所の良き理解者となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見、苦情に対しての対応は窓口が設置されている。申立があれば、申立人より詳しく事情を聞いて、必要とあれば代表者を始め、全職員で検討会議を行い、結果は必ず申立人に翌日説明する仕組みとなっており、運営にも即反映できるように取り組まれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域出身の管理者や職員により地域の人材確保に努め、事業所の色々なレクリエーション活動等に協力してもらっている。また、地域の活動の場として事業所を開放し、住民と利用者の交流を積極的に図られている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念として「認知症であっても当たり前の生活ができるように支援していきます」と記された額が事務所を始め各ユニットの玄関、廊下で目にする事ができる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、職員間で話し合う場もできるだけ見つけ、理念が毎日のサービスに反映される取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの入口の掲示板に行事参加(おさそい)の案内が貼られている。積極的に地元の人々と交流を図る為に中学校、保育所の行事への参加や、町の文化祭には利用者の作品を出品するのなど、馴染みの関係を作る工夫がされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、前回の外部評価の報告書を廊下に掲げ、職員、家族、その他訪問者も見ることができる等、事業所全体で改善に取り組む姿勢がうかがえる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されておりきちんと記録、保存がされている。会議では事業所からの報告を始め、メンバーの意見を重視し、具体的にケアに活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市の介護保険課の担当者が参加されており、制度上の問題等について気軽に相談する事が可能となりサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り、請求書等の定期的な報告や、個別に電話等で利用者の様子を細かく知らせている。また、介護記録や金銭出納帳、現金管理もきちんと行われており、家族に報告され確認のサインもいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、苦情に関しては相談窓口が設置され、申立人より詳しく事情を聞き、必要とあれば代表者、全職員で検討会議を行い、必ず翌日には対応できる仕組みが作られている。会議の内容は記録され、再発防止に役立っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は利用者には不安を与えないよう、できるだけ一部のみ止め、段階的に異動がされている。行事等において他のユニット職員とも馴染みが持てるよう配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の希望する機会を可能なかぎり与えられている。職員会議において報告をし、記録として残されており、情報の共有化がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学、研修の受け入れ等で同業者との交流はできつつあるが、ネットワークづくりまでには至っていない。	○	管理者同士、職員同士がお互いにコミュニケーションを図りながら良い人間関係を築き、ネットワークづくりに取り組んでいかれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の段階で本人、家族とコミュニケーションを十分取り、本人の生活歴やペースに合わせて無理強いをせず、安心感を得られるように配慮しながらサービスにつなげている。家族と相談しながら馴染みのある物を持ち込み、場の雰囲気作りにも配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で利用者の「できること」への支援を職員が一緒に行っている。調理、清掃、生花等、お互いに楽しそうに取り組んでいる様子が見られた。職員は利用者を「人生の先輩」という尊厳の気持ちを持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思い、希望、意向の把握は全職員が毎日のサービス提供時に言葉使いや振る舞いから把握に努めている。利用者個々の趣味を活かした支援を可能な限り行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点に立った個別介護計画が作成されている。本人、家族の意見、希望を聞き、十分に話し合いを行い作成されている。最終的に家族等には確認をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度定期的に見直しは実施されている。状態の変化が見られる折には、その都度検討見直しを行い、計画を変更する等柔軟な対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の状況は日々変化することを踏まえ、利用者、家族の要望に応じ必要なサービスをしている。協力医との連携も図りながら柔軟な支援体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より週2回以上の訪問診察を受ける仕組みとなっているが、本人、家族が希望するかかりつけ医の受診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期におけるケアについては利用契約書に記載されており、重要事項説明書にも協力医療機関、医療連携機関が記載され看取りの体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が、利用者のプライバシーを損ねないような言葉かけや対応がされている。個人情報の取り扱いにも配慮され記録はきちんと保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に本人が「希望すること」や「できること」を大切に生活のリズムができている。何よりその時その時の利用者の気持ちを大切に支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、後片付けまで食事の一連の流れを利用者、職員が共に協力をしながら行っている。楽しい食事となるように同じテーブルを囲んで会話をしながら楽しい雰囲気がうかがえる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に添った入浴支援がなされている。毎日の入浴は可能で夜間も一人ひとりに入浴対応がなされており、入浴はゆったりと気持ち良く職員の見守りができている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全職員で毎日の暮らしの中に一人ひとりの「できること」「役割」「楽しみごと」等の場面作りがなされている。利用者の残存能力を活かし、発揮することで「生きがい」を支援し、楽しく暮らせるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所は可能な限り本人家族の希望を受入れ、個別に外出支援をしている。季節感を大切にお散歩を始め、中学校、保育所、スーパー等へ外出をし、地域の人達との関わりも日常的に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は日中「鍵をかけないケア」に取り組んでいる。ホームの玄関は3ユニットからよく見える建物となっており、玄関の様子を職員は常に目にすることができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、消防署、警察署との連携も図られている。	○	運営推進会議のメンバー、消防署、警察署の協力を得ながら防災対策委員会を設置し、訓練を定期的実施されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分量の摂取についてはその都度チェックされ記録として残されている。職員は協力医の指導のもと利用者の病歴状態を把握したうえ、食事、水分補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ヵ所ある事業所の玄関はそれぞれ異なる雰囲気があり、季節の花が飾られている。トイレ、風呂も使いやすく、廊下、食堂も広々として家庭的な装飾がされており、フローリング、畳敷きのコーナーも設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体機能に合わせて利用者の希望を取り入れた支援がなされている。朝晩の布団の出し入れ、お仏壇のお水、供え物、お経を唱える等、一人ひとりの居心地良い部屋づくりがなされている。居室には家から使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれ置かれている。		